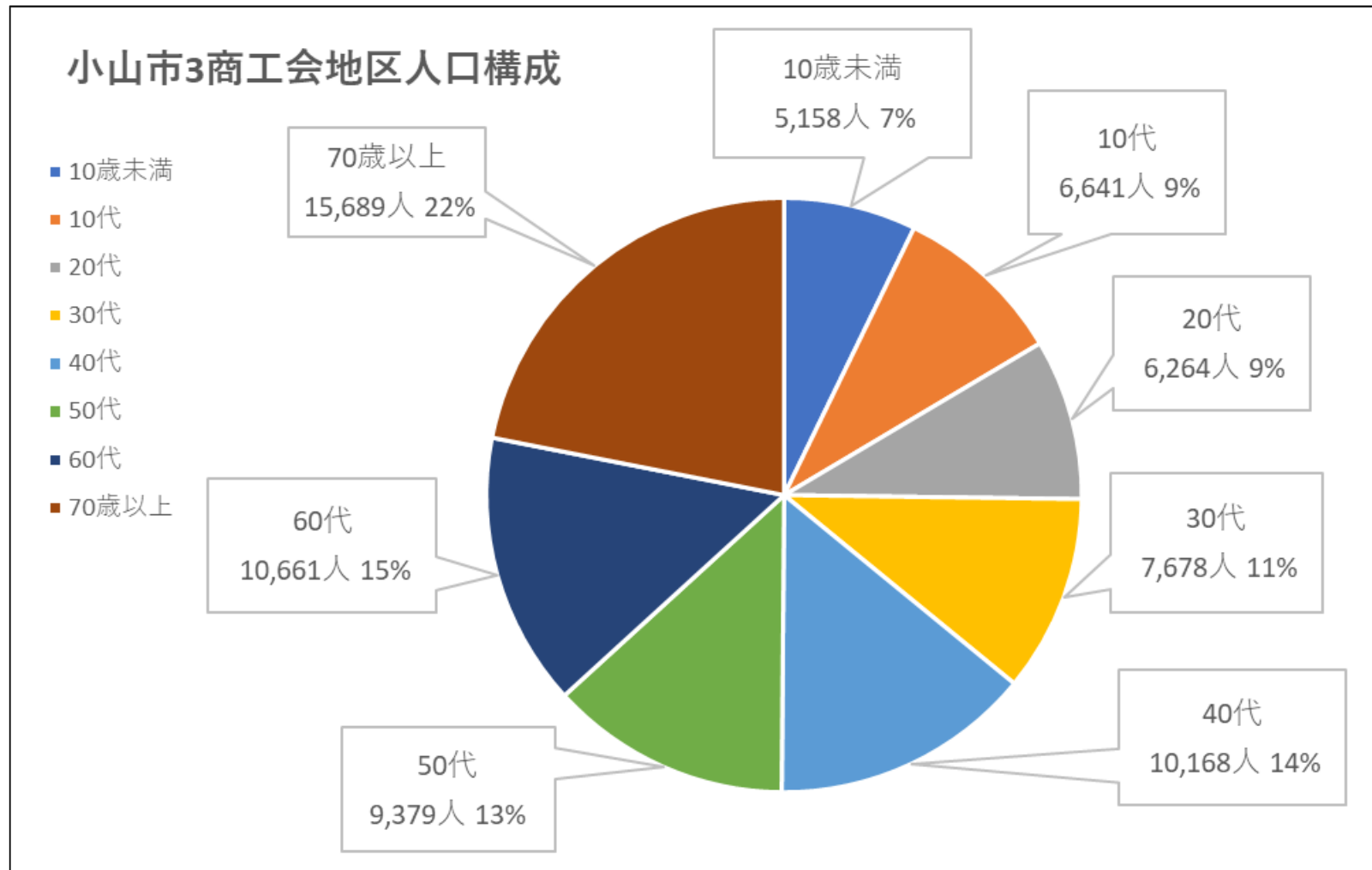


# 令和5年度 小山市おもいがわ商工会管内経済動向の分析

商工会では、株式会社日本統計センターが提供する商圈分析シス「MieNa(ミーナ)」を活用し、小山市3商工会(間々田・美田・桑絹)の地域経済動向を分析しました。どうぞご覧ください。

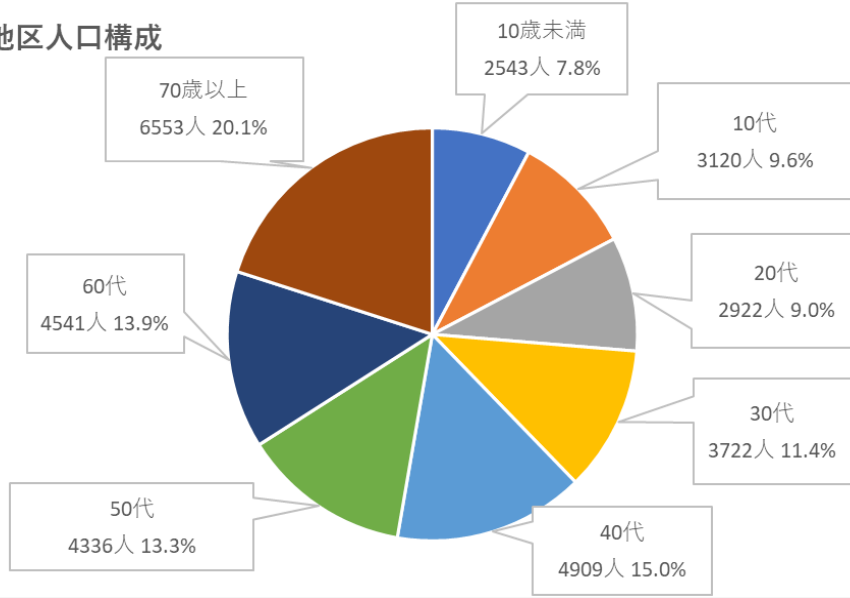
## ①人口構成について

(MieNa2021年度版単会エリア別レポートより)



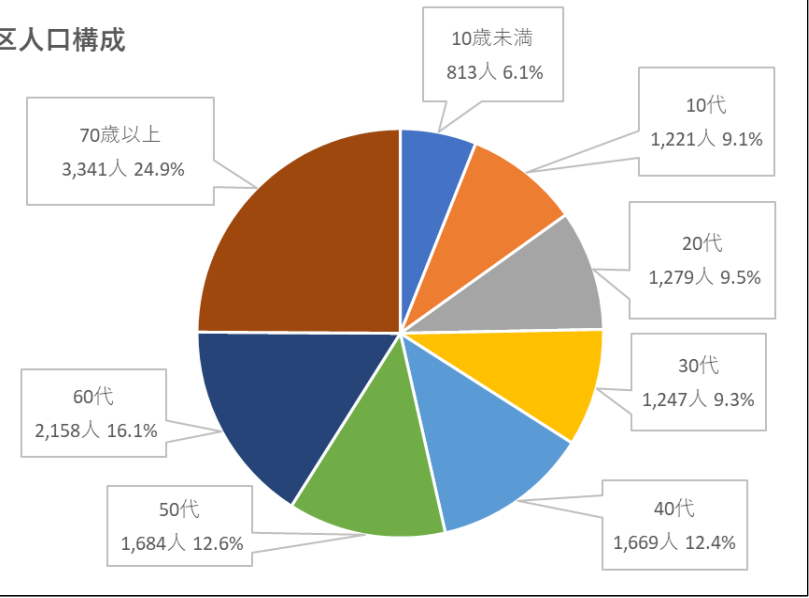
### 間々田地区人口構成

- 10歳未満
- 10代
- 20代
- 30代
- 40代
- 50代
- 60代
- 70歳以上



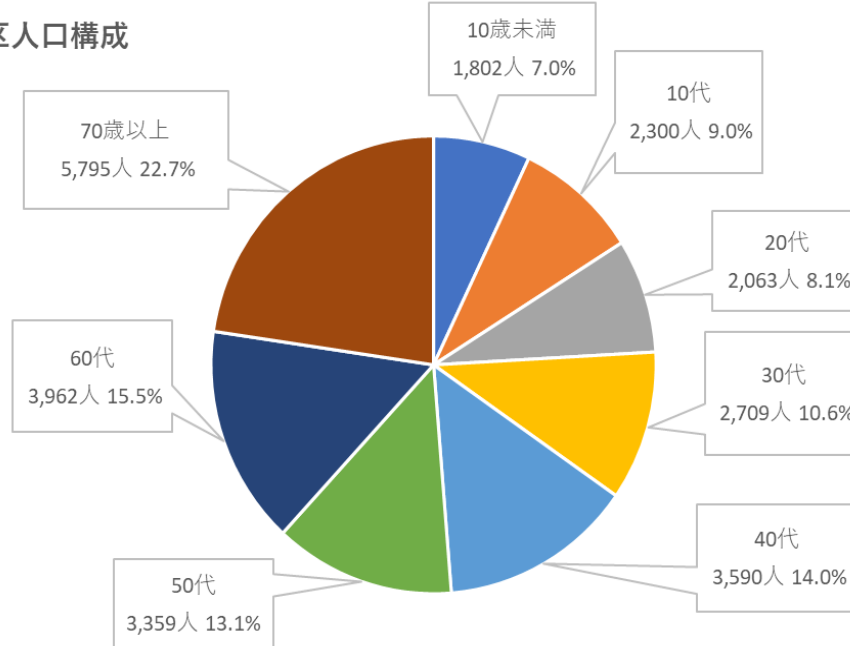
### 美田地区人口構成

- 10歳未満
- 10代
- 20代
- 30代
- 40代
- 50代
- 60代
- 70歳以上



### 桑絹地区人口構成

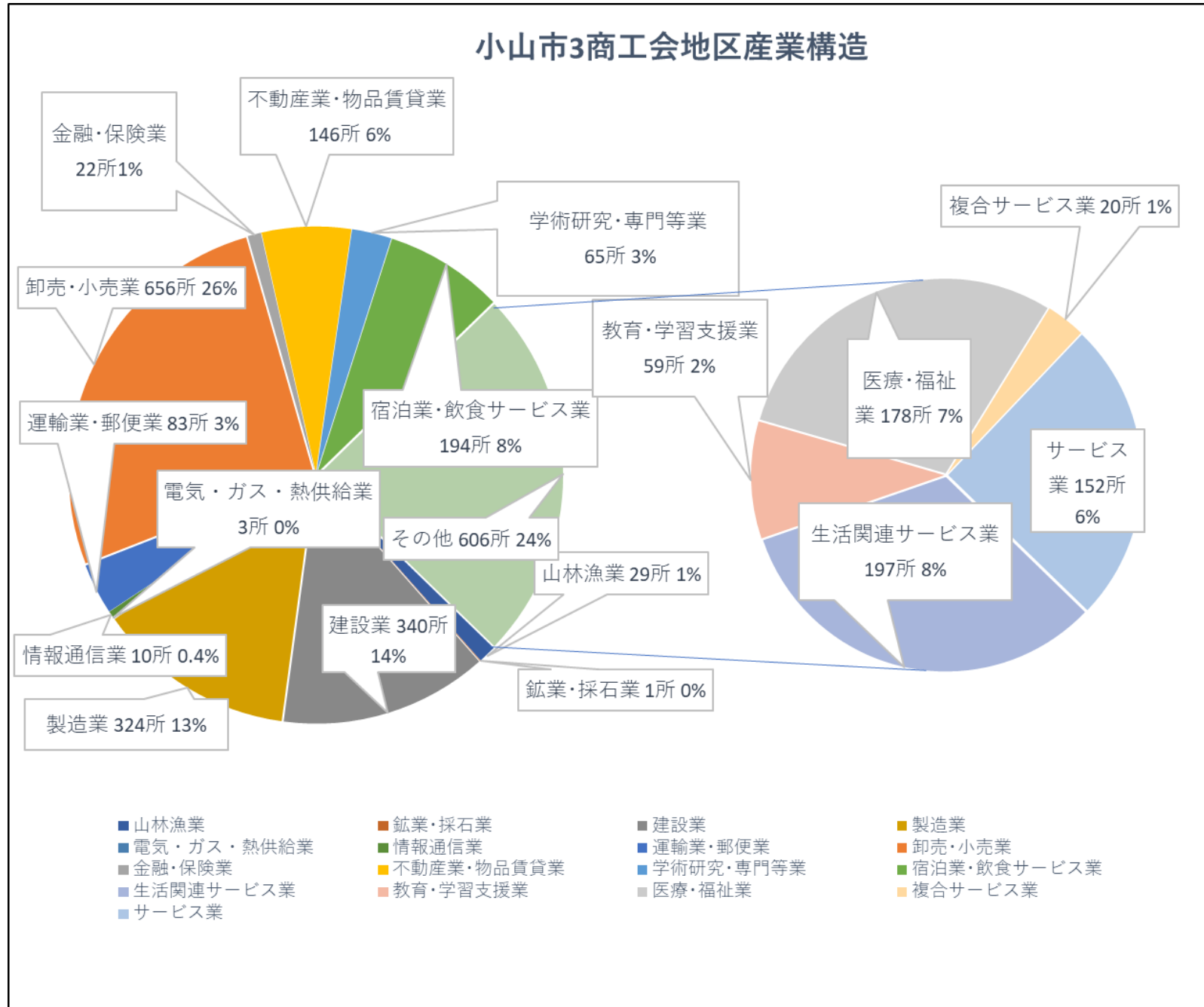
- 10歳未満
- 10代
- 20代
- 30代
- 40代
- 50代
- 60代
- 70歳以上



### 【分析結果】

- ・ 当地域の人口は2020年の住民基本台帳によると5,158人。世帯数は29,407世帯である。
- ・ 年代別人口では3地区共に70歳以上の層が20%を越えており、高齢化が進んでいる。
- ・ 間々田地区においては40代の人口比率が前後の年代より若干高く、子育て世代の住居者が他地区より多いと思われる。
- ・ 美田と桑絹地区においては60代の人口比率が70代以上に続いて多く、今後も高齢化が進んでいく。
- ・ 10歳未満人口率においては、全国平均と比べると、間々田と桑絹地区は平均値以上だが美田地区は下回っており、少子高齢化に拍車がかかっている。

## ②産業構造について



### 【分析評価】

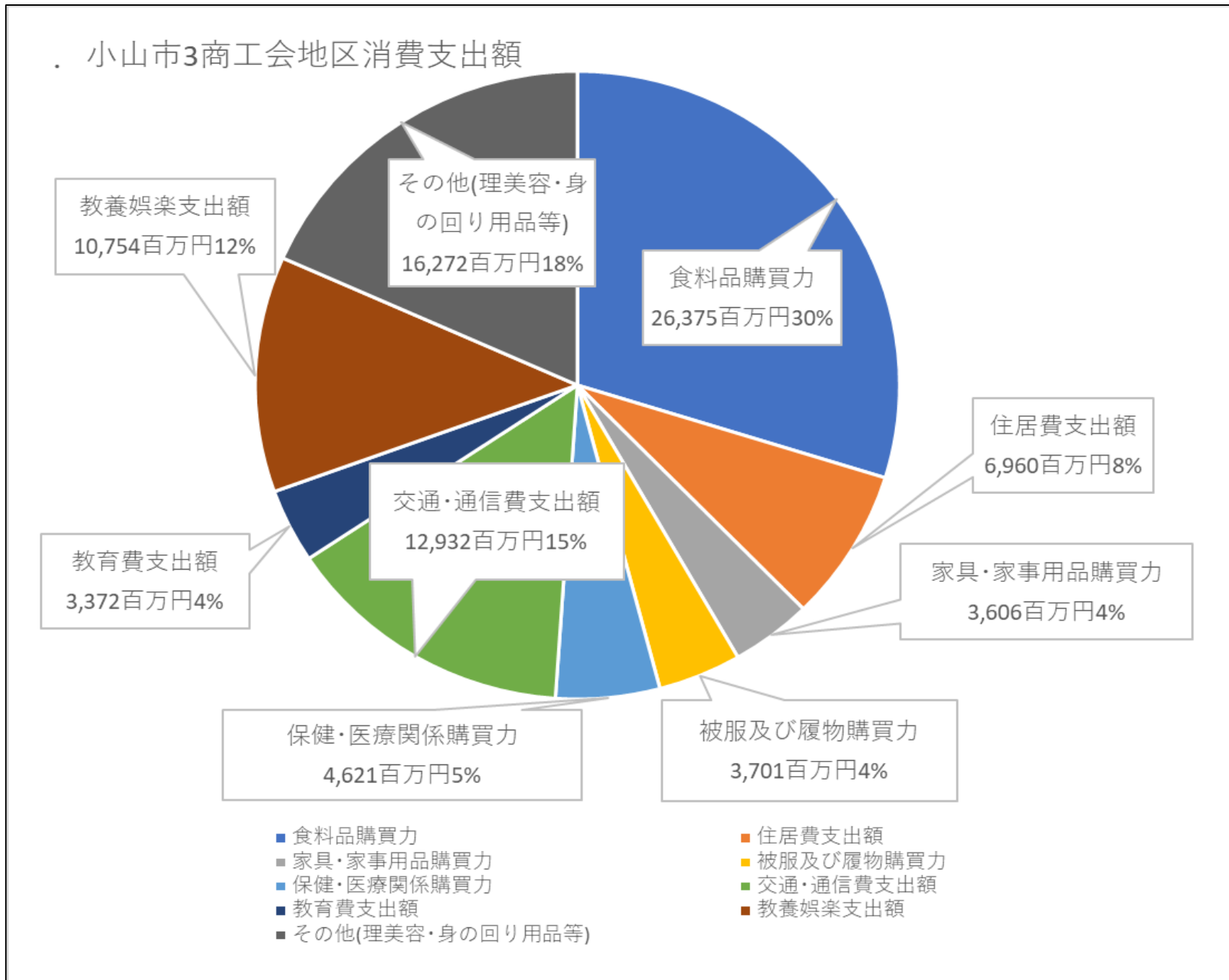
- ・ 当地域の産業は、①卸小売業656事業所 26.5% ②建設業340事業所 13.7% ③製造業324事業所 13.1%

この3大業種が大きく占めている。

詳細データによると、

- ・ 間々田地区においては不動産業・物品賃貸業所比率が平均値より高い。持ち家世帯比率が他地区より低く、賃貸アパートや貸家が多いことからと推測できる。  
また、医療・福祉業所比率が平均値より高く、病院や高齢者施設が増加していると思われる。
- ・ 美田地区は農林業と卸小売業所比率が高い。また複合サービス事業所(金融や保険を扱う郵便局・協同組合等)比率が平均値より高いことから、地域に根付いた信用共済事業所への依存度が高いと推測できる。
- ・ 桑絹地区は卸小売業と運輸業・郵便業所比率が平均値より高い。タクシーなどの旅客業、貨物運送業(集貨された貨物仕分、積合わせて運送する事業場も含む)、倉庫業並びに郵便局等(郵便物又は信書便物送達のみで金融・保険業を除く)事業所が多く点在し、物流が他地区より活発であると推測できる。

### ③商品別消費支出額等について



#### 【分析結果】

- ・当地域の消費力比率の上位は①食料品購買29.8% ②その他(理美容・身の回り品)18.4% ③交通・通信費14.6%となっている。
- ・3地域共に上位3つの比率はほぼ同じであり、生活様態は同じと見られる。
- ・詳細データによると4番目に高い教養娯楽支出費費率内訳において、パソコン購入費や旅行費への支出が高い傾向にあり、今後も増加傾向にあると見られる。
- ・当地域は住居費支出額と教養娯楽支出額比率が平均値より高い。今後需要が高まると予測できることから、新規開業・新規顧客開拓するのにベターな業種となり得る可能性はある。